

工具とジャッキ	62
格納場所	62
工具	62
ジャッキ	62
お出かけ前の点検	63
点検のしかた	64
1 ブレーキ・フルード(液)、クラッチ・フルード(液)の量	65
2 エンジン・オイルの量	65
3 オートマチック・トランスミッション・フルードの量	66
4 ウインドウ・ウォッシャー液の量	66
5 冷却水の量	66
6 Vベルトの張り具合	67
7 排気温警告灯の作動	68
8 ハンドルの遊び、ガタ	68
9 ブレーキ・ペダルの遊び、踏み残り代	68
10 パーキング・ブレーキ・レバーの引き代	68
11 ランプ類の点検	69
12 タイヤの空気圧	69
13 タイヤのみぞの深さ	70
14 排気ガスの色	70

いざ！というときのために (故障の予防と緊急時処理法)

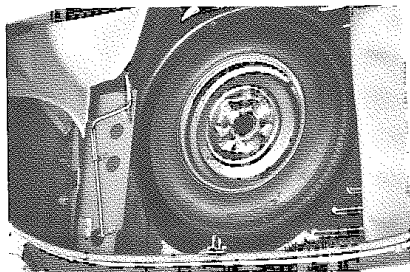
タイヤ交換	70
タイヤ・チェーンの装着	74
万一のときの処置	75
故障したら	75
夜間、休日の修理連絡先	75
エンストして始動できなくなったときは	75
保安炎筒の使い方	76
故障したときの応急処置	77
バッテリーあがりの処置	77
オーバー・ヒートの処置	77
けん引のしかた	78
ヒューズについて	79
故障の調べ方	79
ヒューズ容量と主回路名	80
ランプ・バルブ(電球)について	81



工具とジャッキ

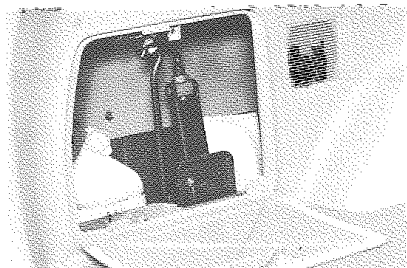
■格納場所

セダン/ハードトップ車



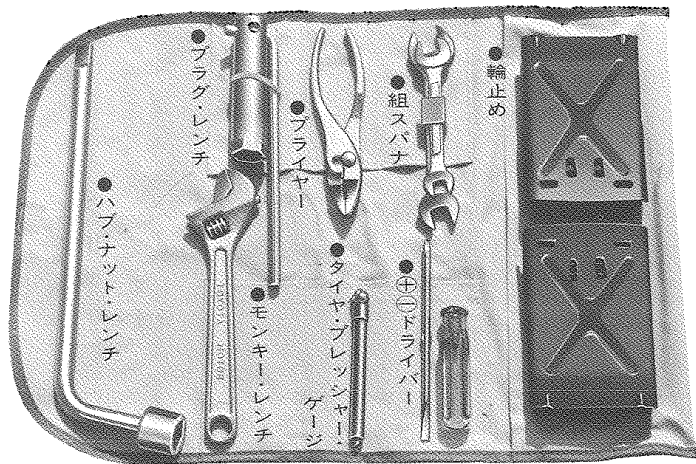
トランク左側のカバーの下に格納されています。

バン/ワゴン車



荷室の左側のカバー内に格納されています。

■工具

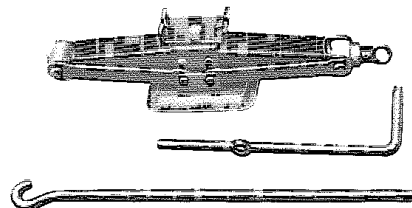


■ジャッキ

セダン/ハードトップ車



バン/ワゴン車



お出かけ前 の点検

仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

1. 法令により実施するよう義務づけられています。
2. 高速で走るときは車に大きな負担がかかります。高速走行（80km/h以上）の予定がある場合には、●印の項目も点検してください。
3. 高速道路などで燃料、冷却水、オイル量の点検が不十分で走行できなくなると違反になります。
4. OKモニターだけで仕業点検をしないようにしてください。

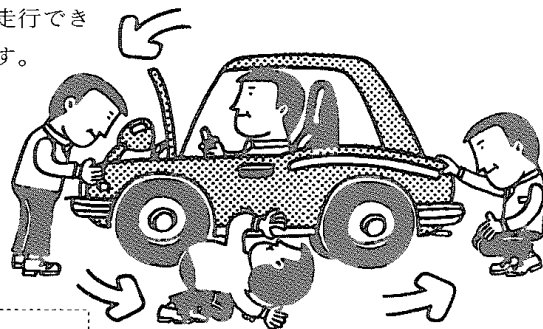
- 印の項目は毎日点検してください。
- 印は、高速走行（80km/h以上）の可能な道路を走行する予定のある場合に追加される点検項目です。
- ▶印は作業要領です。次ページの「点検のしかた」をご覧ください。

■点検は次の順序で行ないましょう。

1 前日の異常個所をチェック

2 エンジン・フードをあけて

- ブレーキ・フルード(液)、クラッチ・フルード(液)の量 ▶11
- エンジン・オイルの量 ▶2
- オートマチック・トランスミッション・フルードの量 ▶3



- ウインドウ・ウォッシャー液の量 ▶4
- 冷却水の量 ▶5
- Vベルトの張り具合、損傷 ▶6
- ラジエーター・キャップの取り付け状態

3 運転席にすわりエンジンを始動して

- 燃料計の作動
- 燃料は十分か
- 電流計，油圧計の作動または警告灯の作動
- 排気温警告灯の作動 ▶ 77
- ターン・シグナル・ランプの点滅具合
- ワイパーの作動，ホーンの作動
- ウインドウ・ウォッシャー液の噴射具合
- デフロスター装置（ガラスの曇り止め）の作動
- リヤ・ビュー・ミラーの映り具合
- ハンドルの遊び，ゆるみおよびガタ ▶ 83
- ブレーキ・ペダルの遊び，踏み残り代 ▶ 92
- パーキング・ブレーキの引き代，効き具合 ▶ 10
- ドア・ロックの具合
- シート・ベルトの損傷，取り付け状態

4 車を前から見て

- ランプ類の点灯およびよごれ，損傷 ▶ 111

- ナンバー・プレートのよごれ，損傷
- タイヤの空気圧，き裂，損傷 ▶ 12
- タイヤのみぞの深さおよび異常摩耗 ▶ 13

- 車が傾いていないこと
- タイヤに金属片，異物がないうこと

5 車を下からのぞいて

- 冷却水，オイル漏れ点検

6 車を後ろから見て

- ランプ類の点灯およびよごれ，損傷 ▶ 111
- ナンバー・プレートのよごれ，損傷
- 排気ガスの色 ▶ 114
- タイヤの空気圧，き裂，損傷 ▶ 12
- タイヤのみぞの深さおよび異常摩耗 ▶ 13
- タイヤに金属片，異物がないうこと
- 反射器のよごれ，損傷
- 車が傾いていないこと

7 徐行しながら

- 水温計，速度計の作動
- ハンドルの重さ，振れ，取られ
- ブレーキの効き，片効き

点検のしかた



1. エンジン回転中は危険ですので次の部分には触れないでください。
 - 回転部分（ベルト，ファンなど）
 - 高温部分（排気管，ラジエーターなど）
 - 電気系統（プラグ・コードなど）
2. 紙や布など，燃えやすいものはエンジン・ルーム内に置き忘れないようにしてください。
3. ホース配管，配線ははずさないでください。
4. ボデー端部などで手にケガをしないように注意してください。

① ブレーキ・フルード(液), クラッチ・フルード(液)の量 ブレーキ・フルード

1. リザーブ・タンクのMAXとMINの間に液があるかを調べます。
2. 液の少ない時はトヨタ純正ブレーキ・フルード・グリコール2400Gを補給します。



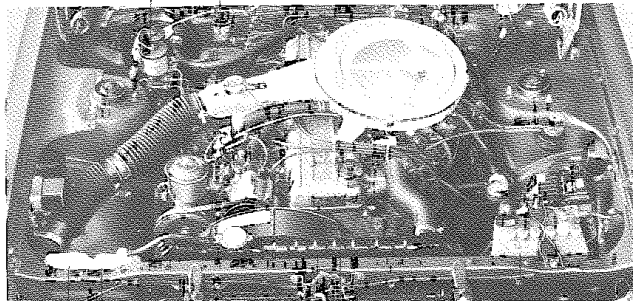
フルードの減りが著しいときは、ブレーキ系統に漏れがある場合があります。早目に点検を受けてください。

クラッチ・フルード

リザーブ・タンク上方の段つき部まで、液があるかを調べます。

● ブレーキ・フルード・リザーブ・タンク

● クラッチ・フルード・リザーブ・タンク



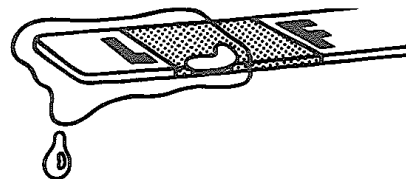
● ラジエーター

● バッテリー

● ラジエーター・リザーブ・タンク

● ウォッシャー・タンク

② エンジン・オイルの量



1. FとLの間にオイルがあるかを調べます。L以下の場合はFまで補給してください。FとLの間は約1ℓです。
2. 補給オイルは、トヨタ純正キャッスル製品もしくは、API基準SC, SD相当を使用してください。

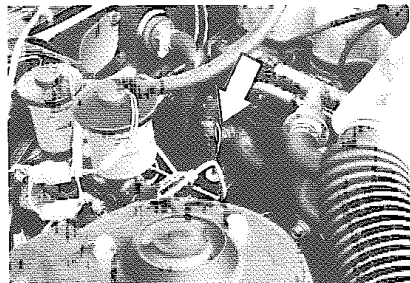
☆点検は、水平な場所で行なってください。車が傾いていると正確な量を示さないことがあります。

☆オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも5分ぐらいたってから点検してください。オイルがエンジン各部に残っていると、正確なオイル量が測れません。

☆F以上にオイルを補給するとエンジン不具合の原因になることがあります。

☆オイルは外気温に応じて90ページの表により使い分けてください。

5 オートマチック・トランスミッション・フルードの量



1. 車を水平な場所に置き、パーキング・ブレーキ・レバーを引きます。
2. エンジンをアイドル状態、シフト・レバーを②～④まで動かした後②にします。
3. レベル・ゲージをきれいにふき、再びもどしてから点検します。
4. フルードの温度が冷えているとき(約25℃)は、COLDの範囲内にあるかを調べます。フルードの温度が暖まっているとき(約75℃, 10分以上走行後の温度に相当)は、HOTの範囲内にあるかを調べます。

フルードが冷えているとき フルードが暖まっているとき



5. フルードが不足したまま走行すると油圧が下がり走行不能になるおそれがあります。トヨタ純正キャッスル・オート・フルード・スペシャルを規定量まで補給してください。

フルードは、必ず規定量にしてください。入れすぎるとオイル漏れになります。

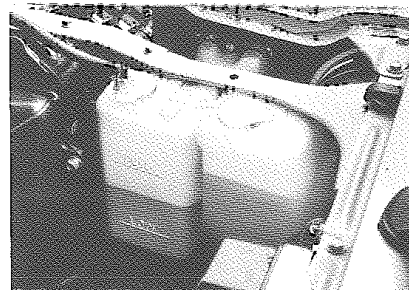
4 ウィンドウ・ウォッシャー液の量

1. タンク内がカラのままウォッシャーを使用すると、モーターが破損することがあります。
2. ウォッシャー液は、トヨタ純正ウィンドウ・ウォッシャー・フルードを次表にしたがってご使用ください。

使用地域・季節	希 釈 割 合	凍 結 温 度
通 常	原液 1 に水 2	-10℃
寒冷地の冬期	原液 1 に水 1	-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50℃以下

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れると塗装のしみなどの原因となることがあります。

6 冷却水の量



1. 冷却水の点検、補給はリザーブ・タンクで行なってください。ラジエーター内の冷却水が減ると、リザーブ・タンクから、自動的に補給される構造になっています。
2. 冷却水の量は常にLOWとFULLの間に保ち、FULL以上は入れないでください。LOW以下のときは、冷却システムの漏れなどを点検し補給してください。
3. 冷却水の補給は、キャッスル・ロ

ング・ライフ・クーラントの濃度を30%または50%にしてご使用ください。

通常は2年で交換してください。

86ページの「冷却水の交換」の項目を参照してください。



1. 点検は、冷却水が冷えているときに行なってください。
2. ラジエーター・キャップは冷却水の交換の時以外はあけないでください。
3. ロング・ライフ・クーラントの濃度を薄めて使用すると防錆力が低下し錆などの不具合原因となることがあります。
水だけの補給はしないでください。

⑥ Vベルトの張り具合

図のように押えて、たわみ量を点検します。また、き裂やはがれがないかを調べてください。

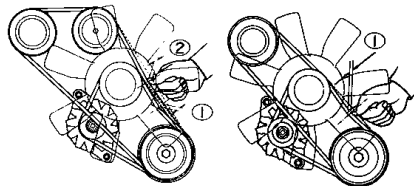
たわみ量 (単位 mm)

点検 エンジン	①ファン・ベルト	②エア・ポンプベルト
3 T-U	8~12	13~18
13 T-U	↑	
16 R-J	9~13	
21 R-U	8~13	8~13
M-U	10~14	18.0~21.5
M-EU 4 M-EU	↑	

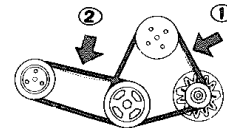
(ベルト中央部を10kgの力で押して)

2000cc (M-U) 2000cc (M-EU)

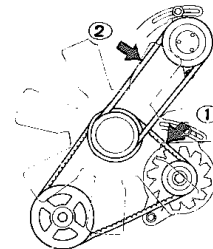
2600cc (4 M-EU)



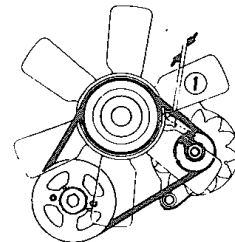
2000cc (21 R-U)



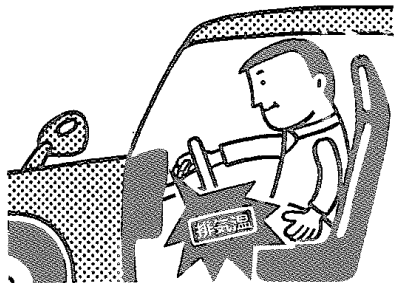
1800cc (3 T-U, 13 T-U)



1800cc (16 R-J)



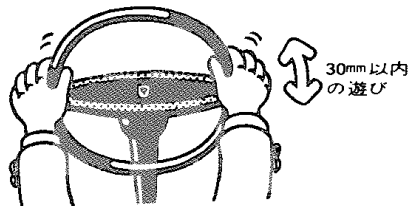
⑧ 排気温警告灯の作動



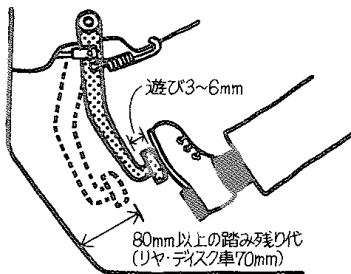
エンジン・スイッチをONにすると「排気温」のランプが点灯し、始動すると消灯することを確認してください。

10ページの「排気温警告灯」の項目を参照してください。

⑨ ハンドルの遊び、ガタ



⑩ ブレーキ・ペダルの遊び、踏み残り代

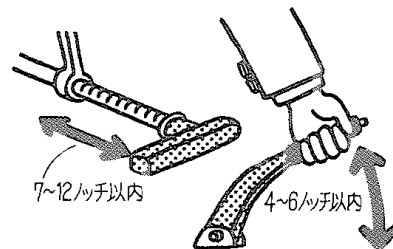


エンジンをアイドリング状態で点検します。

ペダルを強く（約50kg）踏んだ時の数値を示します。

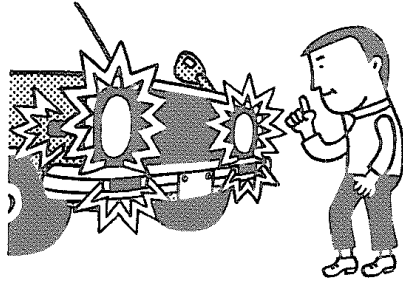
なお、ペダルを踏みつづけた時にペダルがさらにはいり込むことがないことを確認してください。

⑪ パーキング・ブレーキ・レバーの引き代、効き具合



ブレーキ・レバーを強く（約20kg）引いて、引き代を調べます。ノッチとは、パーキング・ブレーキ・レバーを引くときのカチカチ音、カチと1回音がすれば1ノッチです。

☐ ランプ類の点検



次のランプが点灯するかを点検し、よごれや損傷がないかを調べます。

ヘッドランプ

ハザード・ウォーニング・ランプ

(非常点滅表示灯)

パーキング・ランプ

クリアランス・ランプ (車幅灯)

ストップ・ランプ

テール・ランプ

ナンバー・プレート・ランプ

メーター照明ランプ

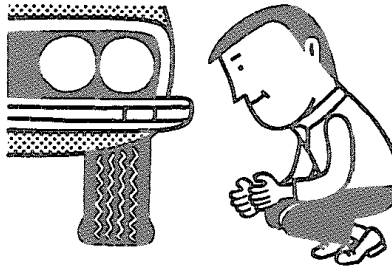
ルーム・ランプ

エンジン・スイッチをONにして

ターン・シグナル・ランプ

バック・アップ・ランプ

☐ タイヤの空気圧



走行前のタイヤが冷えているときにゲージを使用して点検してください。

タイヤ空気圧 ()内は高速時
[]内は6名乗車時

タイヤ・サイズ		空気圧 kg/cm ²		
		前 輪	後 輪	
6.45-14-4 PR		1.6 [1.7] (1.9) [(2.0)]	1.6 [1.7] (1.9) [(2.0)]	
6.45-14-6 PR 175S R14 185/70HR14		1.6 (1.9)	1.6 (1.9)	
6.95-14-6 PRLT (バン車)	STD	1.8 (2.1)	空積	1.8 (2.1)
	DX		積	3.0 (3.25)
	GL		空積	1.8 (2.1)
			積	2.8 (3.0)

タイヤの標準空気圧表は、運転席ドア後部にも張ってあります。

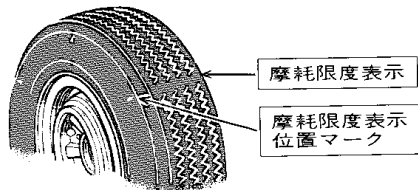
タイヤ・プレッシャー・ゲージの使い方

1. バルブ・キャップをはずし、空気が漏れないようにゲージをバルブに押しつけてください。
2. 目盛り板がとび出した後、はなして目盛りを読みます。
3. 測定後、空気が漏れないことを確かめキャップをはめます。



1. スペア・タイヤの空気圧も調べましょう。
2. チューブレス・タイヤの場合。空気圧が極端に少なかったり、リムが変形したときなどは、タイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れるので特に注意してください。

15 タイヤのみぞの深さ



みぞが浅くなるとすべりやすくなり危険です

摩耗限度表示（みぞの深さが1.6mmになったら現われます）が現われたら、タイヤを取り替えましょう。

16 排気ガスの色

無色または薄青色……………正常

黒色……………混合気が濃すぎるための不完全燃焼です。ただし、チョークがきいているときは異常ではありません。

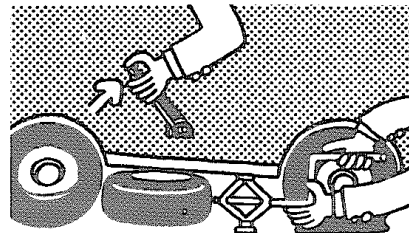


白色……………エンジン・オイルが燃えている場合があります。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。



タイヤ交換

☆交通のじゃまにならず、安全に作業ができる場所を選び、車を水平な位置に止めてください。



ジャッキがはずれると車が急に傾き大変危険です。

☆路上ではハザード・ウォーニング・ランプを点滅させ、人はおろしてください。

☆作業をするときボデー端部などでケガをしないように注意してください。

☆パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早目にパンク修理をしてください。

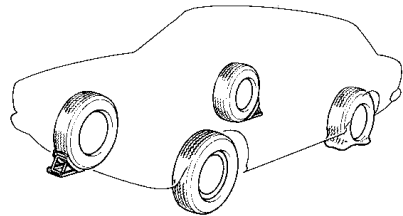
〈準備〉

- 1 パーキング・ブレーキ・レバーを引きます。

2 工具、ジャッキを取り出し輪止めをします。

左側パンク時……右側前後のタイヤの外側に

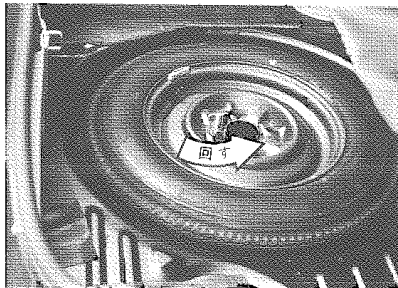
右側パンク時……左側前後のタイヤの外側に



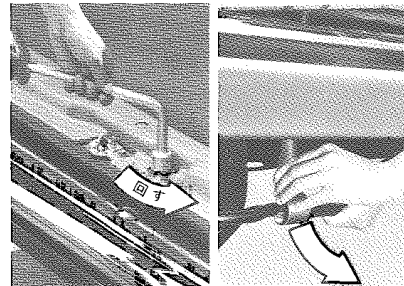
3 スペア・タイヤはトランク・ルームの床面より下に格納してあります。

蝶ネジを左に回して取り出してください。バン、ワゴン車は床下後部に取り付けてあります。床上のボルトを十分ゆるめ、タイヤのささえを少し持ち上げて支柱からはずします。支柱を足の上などに落とさないように注意してください。スペア・タイヤの格納場所は次のページの写真で説明してあります。

セダン/ハードトップ車



バン/ワゴン車



4 スペア・タイヤを、パンクしたタイヤのボデーの下に置きます。

(ジャッキがはずれた場合の危険防止のため)

5 ホイール・キャップ、センター・オーナメントなどを取りはずします。ハブ・ナット・レンチの柄の先を

使うと楽にははずれます。直接手をかけて取ると指をケガすることがあります。

〈ジャッキのセット〉

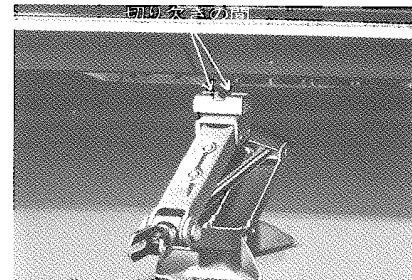
1 ジャッキをセットします。

所定の位置に確実にセットしてください。

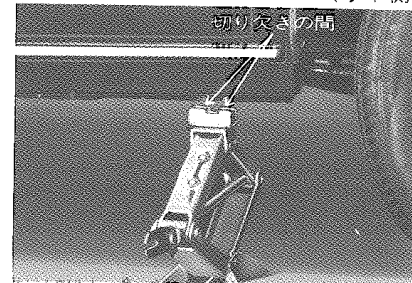
ジャッキ・セット位置

セダン/ハードトップ車

〈フロント側〉

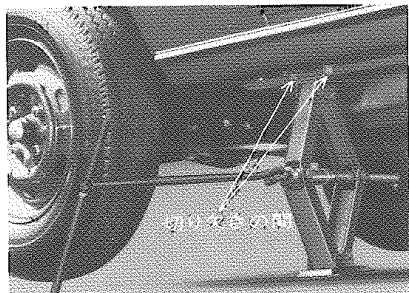


〈リア側〉

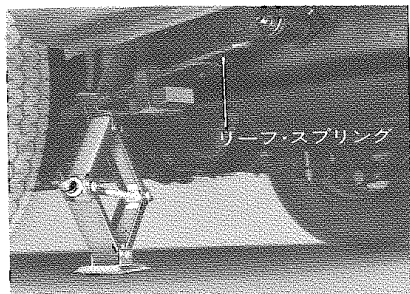


バン/ワゴン車

<フロント側>



<リヤ側>



☆注意

ジャッキは、地面の平らな固くて安定できる場所にセットしてください。

2 ハブ・ナットをゆるめます。

ハブ・ナット・レンチでナットを手で回る位までゆるめます。

3 車をタイヤと地面とが、少しはなれるまでジャッキ・アップします。

☆注意

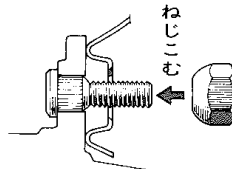
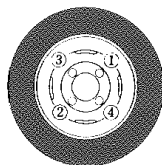
万一、ジャッキがはずれると大変危険ですのでジャッキ・アップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。

<タイヤ交換>

1 ナットをはずし、タイヤを取り替えます。

2 ナットを再び締めします。
ナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを締めます。

3 ジャッキを下げて図の順序でレンチを使用して手で十分締め付けます。



☆注意

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。

4 ホイール・キャップやセンター・オーナメントなどを取り付けます。
タイヤのバルブ（空気口）に、ホイール・キャップの穴を合わせてください。

5 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。
トランク・ルームにタイヤを格納するときは確実に固定してください。

6 バン、ワゴン車はパンクしたタイヤを、タイヤ・キャリアに乗せます。
キャリアを持ち上げフックをかけたタイヤが、ガタつかなくなるまでボルトで締め付けます。

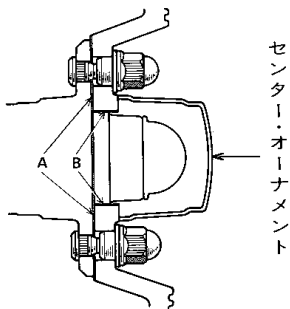
7 パンク時に限らず、タイヤを脱着したときは、タイヤを取り付けて、1000km走行後、再度ハブ・ナットを締め付け、ゆるみがないことを点検してください。



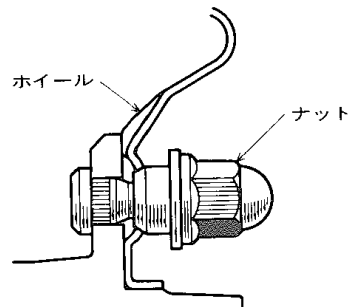
1. スペア・タイヤの空気圧は使用するとき調整してください。
2. やむをえず未調整のまま走行するときはひかえめな速度で走行してください。
3. 空気圧が低いまま走行を続けると、高速走行時タイヤが疲労しバーストするおそれがあります。
4. また、チューブレス・タイヤの場合はタイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れやすくなり危険です。
 - ◎ リムを変形させるおそれもあります。
 - ◎ 急ハンドル時タイヤがリムからはずれ事故を起こすおそれがあります。
5. タイヤ空気圧を点検するときは下記の事項を守ってください。
 - ◎ 走行前のタイヤが冷えているときにゲージを使用して点検すること。
 - ◎ 走行後は標準空気圧より高いのが普通です。減らさないでください。
6. タイヤ交換後、走行中ハンドルやボデーに振動が出た場合はタイヤのバランスを修正してください。

＜アルミ・ホイール装着車＞

1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くとホイール面を傷つけるおそれがあります。
2. バランス・ウエイトおよびナットはトヨタ純正のアルミ・ホイール専用品をお使いください。
3. 傷、変形のあるアルミ・ホイールは再使用しないでください。
4. アルミ・ホイールを再び車面に取り付けるとき図のA、B部のよぐれをきれいにふいてからBの部分を実にはめ、ハブ・ボルトが取り付け穴の中心にくるようにして、ハブ・ナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。



5. ハブ・ナットを締めすぎないように注意してください。
6. オーナメント取り付けビスを締めすぎないでください。
7. ホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着しないでください。雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。取り付ける場合、ハブ・ナットは下図のように取り付けてください。



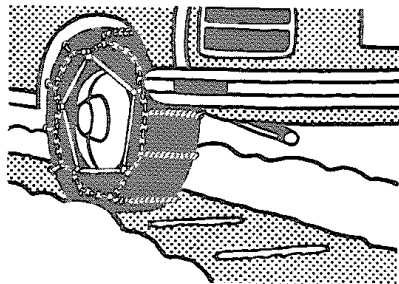
タイヤ・チェーンの装着

★タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

★車を水平な位置に止めます。

★路上ではハザード・ウォーニング・ランプを点滅させ、人はおろしてください。

★作業をするときボデー端部などでケガをしないように注意してください。



＜取り付け方＞

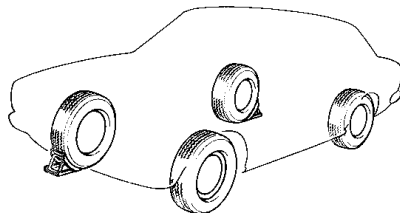
1 輪止めをします。

左側チェーン取り付け時……………

右側前後のタイヤの外側に

右側チェーン取り付け時……………

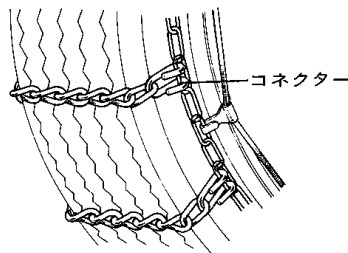
左側前後のタイヤの外側に



2 後輪をジャッキ・アップします。

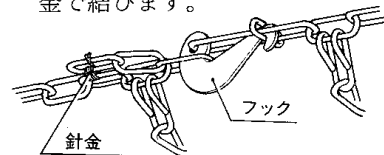
(ジャッキ・セットのしかたは70ページの「タイヤ交換」の項目参照)

3 コネクターの折り曲げを外にしてタイヤを回しながらチェーンをかぶせます。

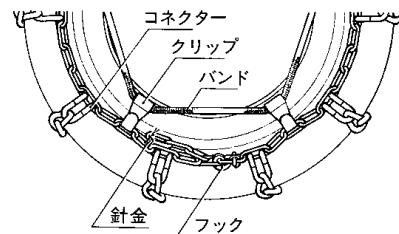


4 チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。

余ったチェーンはボデーに当たるのを防止するために図のように針金で結びます。



5 チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



6 ジャッキをおろし輪止めを、はずします。

2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどが無いことを確認してください。

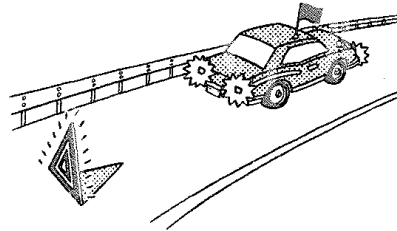
〈取りはずし方〉

- 1 チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。
- 2 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



1. タイヤ・チェーンは、車のタイヤ・サイズに合ったものを使用してください。
2. タイヤ・チェーンを装着した場合は、次の速度で走行してください。
雪路、凍結路30km/h以下
(乾燥路面でのタイヤ・チェーンの装着はできるだけさけてください。)
3. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。
4. アルミ・ホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着しないでください。
雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。

万一のときの処置



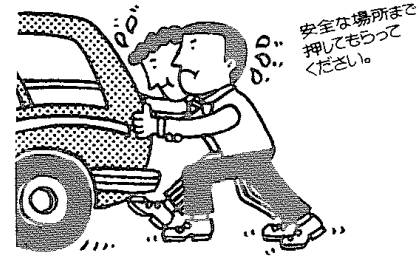
1. 車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・ランプを点滅させるか、赤旗などを表示します。
2. 高速道路や自動車専用道路では、後方からくる車が200 m手前で故障車を確認できるようなウォーニング・リフレクター(停止標示器材板)を置くことが、法律で義務づけられています。

■夜間、休日の修理連絡先

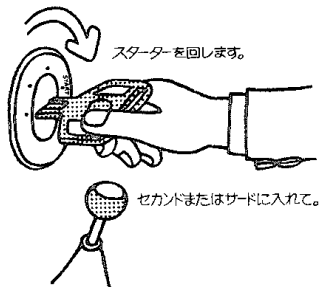
“整備手帳”巻末のトヨタ・サービス網をご覧ください。

■エンストして始動できなくなったときは

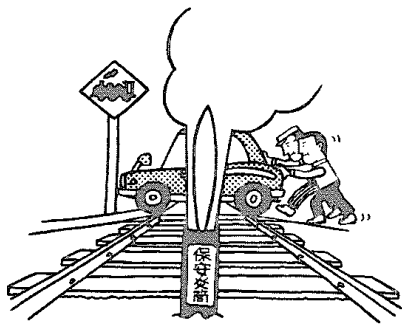
1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



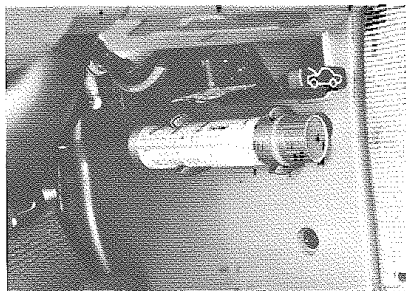
2. マニュアル・トランスミッション車の場合、急を要するときはスターターで抜け出してください。ギヤをセカンドまたはサードに入れ、スターターを回します。
このときクラッチ・ペダルから足をはなしておきます。また平担路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



3. 踏切などで動かなくなり電車が来そうになったり緊急を要するときは保安炎筒で合図してください。次の「保安炎筒の使い方」の項目を参照してください。



■保安炎筒の使い方



計器盤右下部に備え付けてあります。踏切内での故障など、非常時に使用します。

1. 保安炎筒の有効期間は3年です。
ラベルに表示されている有効期限を確認しておきましょう。
2. 発炎時間は約5分間。
使用方法をよく読んで万一来に備えてください。



1. お子様にはさわらせないでください。
2. 非常信号用としてのみご使用ください。
3. 使用中は筒先を顔や体に向けたり

近づけたりしないでください。火傷の危険があります。

4. 発炎時間は約5分間ですので、ハザード・ウォーニング・ランプを併用するようにしてください。

故障 したときの 応急処置

■バッテリーあがりの処置

バッテリーあがりによりエンジン始動ができない場合、ブースター・ケーブルがあれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

作業にあたっては必ず次の手順を守ってください。

1. ブースター・ケーブルを図の番号の順序に接続します。

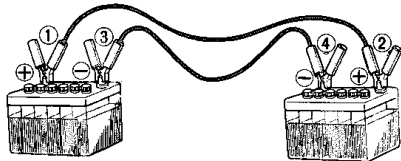
⊕⊖を間違えないでください。

自車

(バッテリーあがり車)

他車

(救援車)

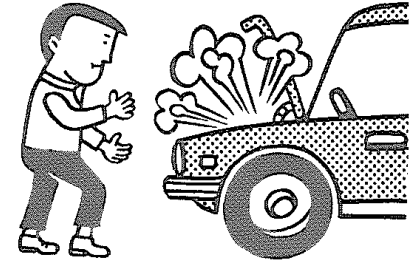


2. 接続後、他車のエンジンを始動させ回転数を少し高目にしておきます。
3. 自車のエンジンが始動したら、取り付けたときの逆の順序でブースター・ケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリン・スタンドやトヨタ・サービス工場で完全充電してください。



1. 絶対に押しがけによる始動はやめてください。
2. バッテリーは自車と同じ電圧(12V)の車を使用してください。
3. ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
4. ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように接続には十分注意してください。
5. エンジン回転中に、バッテリーのターミナルをはずさないでください。電気部品の故障原因になります。

■オーバー・ヒートの処置

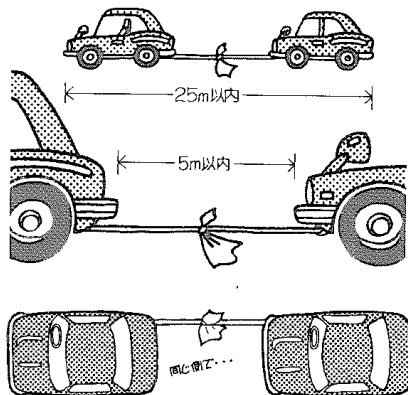


1. 安全な場所へ車を止めてください。
2. エンジンをかけたままで、フードをあけ、風通しをよくします。
3. ヒート・ゲージの針が下がってきたら、エンジンを止めます。
4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、Vベルトのゆるみを点検します。



あわててラジエーター・キャップをはずすと、冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯が吹き出して思わぬ火傷をすることがあります。

■けん引のしかた



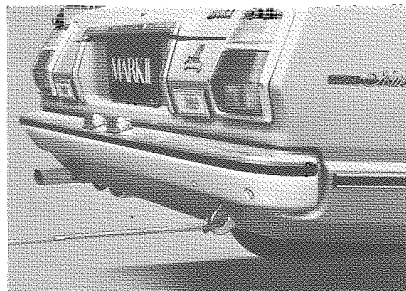
ロープをかける位置

<フロント側>

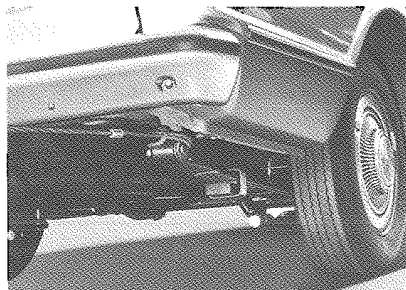


<リヤ側>

セダン/ハードトップ車



バン/ワゴン車



けん引車は急発進、急停車をしないようにし、けん引される車はけん引車のストップ・ランプに注意し、常にロープをたるませないように気をつけましょう。



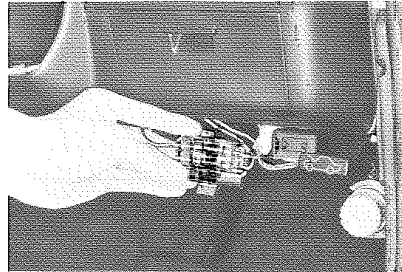
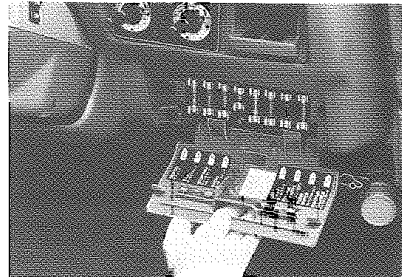
1. シフト・レバーをⒶの位置にしてください。
2. キーはLOCKの位置まで回さないでください。キーが抜けるとハンドルが切れなくなり危険です。
3. エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。
4. また、パワー・ステアリング付き車はハンドル操作が非常に重くなります。できる限りエンジンを始動してけん引してください。
5. 長坂路を下るときはブレーキが過熱し効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。
6. トランスミッション内部に故障があり、動かすと不具合があると思われるときは、後輪をつり上げるかプロペラ・シャフトを取りはずしてからけん引してください。

オートマチック・トランスミッション 車の場合

1. けん引される前にオートマチック・トランスミッション・フルードの量を調べてください。
2. シフト・レバーをⓀの位置にし30 km/h以下で走行してください。また、けん引される距離は80km以内にしてください。
3. トランスミッション内部に故障があるときは後輪をつり上げるか、プロペラ・シャフトをはずしてからけん引してください。

ヒューズ について

故障の調べ方








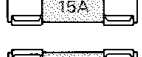
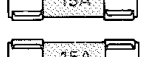

計器盤右下部のヒューズ・ボックスのふたにヒューズ容量と主回路名が記入してあります。そのヒューズの受けもっている配線全部が作動しないときはヒューズ切れと考えられます。





1. 指定のヒューズ以外のものは使用しないでください。針金、銀紙などを使用するとワイヤー・ハーネス（電線）過熱焼損の原因になります。
2. スペア・ヒューズを取り付ける前に必ず原因を調べてください。取り替えてもまたヒューズが切れる場合は点検を受けてください。

■ ヒューズ容量と

主回路名

DEFOG		デフォッグ	リヤ・ウィンドウ・デフォッグ
TAIL		テール・ランプ, メーター	クリアランス・ランプ, テール&パーキング・ランプ, ナンバー・プレート・ランプ, メーター照明, グローブ・ボックス照明, シガレット・ライター照明, 時計照明
STOP・HAZ		ストップ・ランプ, ハザード	ストップ・ランプ, パーキング・ランプ, ハザード・ウォーニング・ランプ
RADIO		ラジオ, ステレオ	ラジオ ステレオ
TURN WIPER		ターン・シグナル, ワイパー	ワイパー, ウォッシャー, リヤ・ワイパー, ターン・シグナル・ランプ
ENGINE E.PARTS		エンジン, EFI	排気温ウォーニング・コンピューター, 電熱チョーク, OKモニター, オート・ドライブ, EFI, ESC
HEAD-LH		ヘッド・ランプ	ヘッド・ランプ (左側)
HEAD-RH		ヘッド・ランプ	ヘッド・ランプ (右側)

ヒューズ・ブロック下

BACK GAGE		バック・ランプ, ゲージ	バック・アップ・ランプ, エア・コンディショナー, コンビネーション・メーター内のゲージ&ウォーニング・ランプ
LIGHTER		シガ・ライター	シガレット・ライター

ランプ・バルブ (電球) について

■ランプ・バルブ(電球)について

フロント側

- クリアランス&フロント・パーキング・ランプ 5W
- フロント・ターン・シグナル・ランプ (ハザード・ウォーニング・ランプ) 23W
- サイド・ターン・シグナル・ランプ (ハザード・ウォーニング・ランプ) 8W

リヤ側

- リヤ・ターン・シグナル・ランプ (ハザード・ウォーニング・ランプ) 23W
- ストップ、テール&パーキング・ランプ 21/5W
- バック・アップ・ランプ 23W

- ナンバー・プレート・ランプ 7.5W

室内

- ルーム・ランプ 10W
- フロント・パーソナル・ランプ 8W
- カーテシ・ランプ 5W
- バック・ドア・ランプ (バン/ワゴン車のみ) 10W
- エンジン・キー照明ランプ 1.4W

ランプ・バルブ(電球)の交換は必ず同容量のものにしてください。

